

D型仔貝放流水域におけるセタシジミ資源調査

井戸本 純一

◆背景・目的

セタシジミD型仔貝の放流規模が拡大したことから、その放流効果の評価方法は、これまでのような放流種苗ベースでの生残率の推定から、漁場ごとの漁獲量に直結する資源ベースでの評価に重点を移す必要があると考えられる。そこで、資源調査用に開発した定量桁網を用いて、平成13年度から放流している湖北町今西地先および本年度から放流している近江八幡市長命寺沖の漁場においてセタシジミ資源の定量調査を試みた。

◆成果の内容・特徴

- ・ 定量採集した貝を殻長5mm刻みで区分し、それぞれの生息密度を算出した。
- ・ 今西地先では、漁獲可能資源（殻長15mm以上）は、昨年度の3.38個/m²から5.22個/m²に増加した。しかし、漁獲直前資源（殻長10～14.99mm）は、4.63個/m²から2.65個/m²に減少した。
- ・ 放流効果がまだ現れないと考えられる長命寺沖では、漁獲可能資源は0.74個/m²と少なかったが、漁獲直前資源は3.39個/m²と比較的多かった。

◆成果の活用・留意点

- ・ 今西地先での漁獲可能資源の密度増加は放流効果と考えられるが、漁獲直前資源の密度減少は放流効果が毎年一定ではない可能性を示している。
- ・ 長命寺沖での漁獲直前資源の多さは、この漁場における資源の再生産が成熟間もない小型の個体に支えられていることを示しているとともに、ここでの成長が比較的遅いことを示唆している。
- ・ 資源の絶対量や再生産力の回復具合を推定するには、GIS等を応用した高次的な解析手法を導入する必要がある

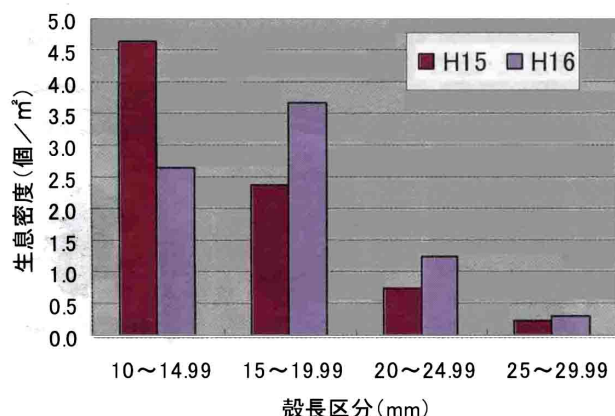


図1 今西地先漁場におけるセタシジミの
体型別生息密度.

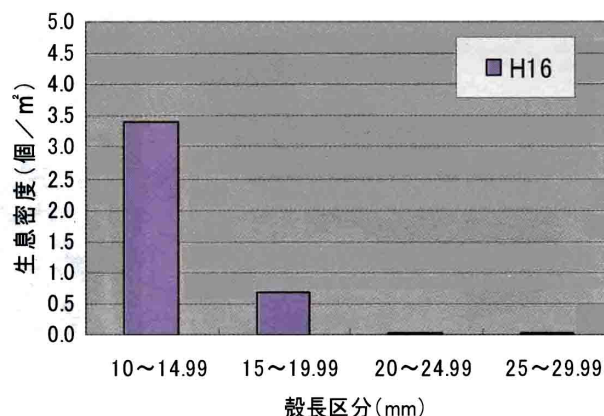


図2 長命寺沖漁場におけるセタシジミの
体型別生息密度.